

事業概況

車載用リチウムイオン電池事業

事業部長メッセージ

当社グループは、世界初の量産EVに電池を供給したほか、HEV用リチウムイオン電池メーカーの中で先駆けて量産を開始し、15年以上、安定的に電池を提供し続けてきました。こうした先駆者としての実績や高品質の製品を安定的にお届けしてきたことで、日系自動車メーカーとの関係性を深化させてきました。

グローバル規模で自動車の電動化が進んでおり、リチウムイオン電池の需要は不可逆的なトレンドになっています。2030年代半ばまでは、HEV用リチウムイオン電池の堅調な需要が予想され、2020年代後半から徐々にBEV用リチウムイオン電池へのシフトが進んでいくものと予想されます。また、BEV化のスピードに変化があった場合にも、HEV・PHEV市場の拡大延長が考えられ、これらの事業をあわせ持つ当社にとっては有利であると考えています。

第六次中期経営計画期間中は、HEV用リチウムイオン電池

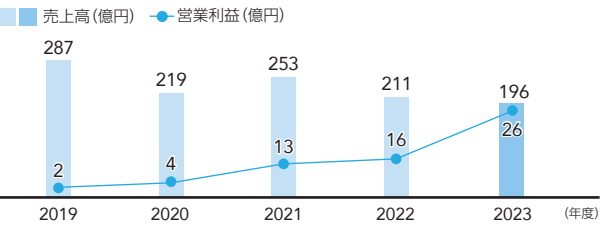
(株)GSユアサ 常務執行役員
リチウムイオン電池事業部長
青山 俊之



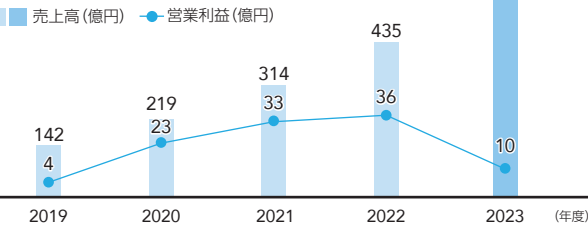
の需要増を見込んでおり、2025年度にブルーエナジーの生産能力を年間7,000万セルに拡大することで、需要に応じていく方針です。PHEV用リチウムイオン電池は採用車種の拡大を強化していきます。2024年2月に吸収した旧LEJについては、既存顧客との取引を継承し、今後の活用については検討を進めています。BEV用リチウムイオン電池は、本田技研工業(株)との合併会社のHGYBを中心として、2027年の量産開始を目指して国際競争力が高い高性能な電池の開発を推し進めています。まずは技術・サプライチェーンの確立に向けて、国内での事業立ち上げを着実に進め、足場を固めていく考えです。

基本情報

旧リチウムエナジー ジャパンの売上高・営業利益推移



ブルーエナジーの売上高・営業利益推移



SWOT分析

■ 日系自動車メーカーからの高い品質評価と信頼に基づいた盤石な顧客基盤 ■ ブルーエナジー／リチウムエナジー ジャパンの実績 ■ HEVとPHEVにおける10年を超える市場での量産実績	強み S	■ 中韓メーカーと比べた事業規模 ■ 生産拠点の国内集中	弱み W
■ 日系自動車メーカーのHEVの需要拡大 ■ EV化に伴うBEV用電池の需要拡大	機会 O	■ 原材料価格の高騰や、安定調達への懸念 ■ 欧米の法規制 ■ 海外勢のシェア独占による次世代製品の競争力劣後 ■ 人手不足	脅威 T

第六次中期経営計画の事業戦略

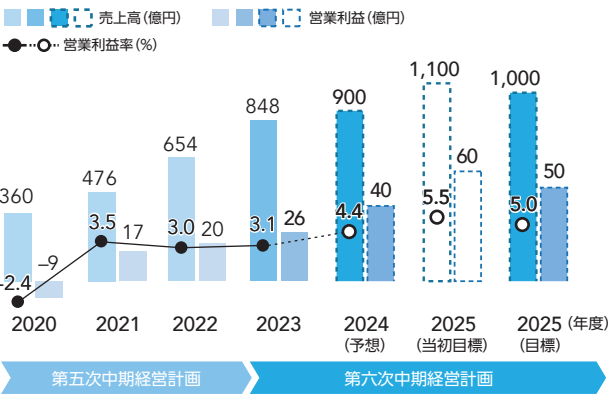
方針

カーボンニュートラルや政府目標を機会と捉え、リチウムイオン電池事業の持続的な成長を達成する

戦略および重要課題

HEV 用 ■ 歩留まり率、稼働率の向上 ■ ブルーエナジー第2工場のさらなる増産体制の構築 ▶ 今後の取り組み ● 原材料高騰やインフレなど状況に応じた売価見直し ● 生産能力に合わせた設備の安定稼働と歩留まり改善 ● 生産能力拡大による需要対応	BEV 用 ■ 開発体制の強化 ■ 事業参入への準備 ▶ 今後の取り組み ● 2027年度の工場稼働開始に向けた準備
PHEV 用 ■ 歩留まり率、稼働率の向上 ■ PHEV用電池の生産体制の強化 ▶ 今後の取り組み ● 生産能力拡大による需要対応	12V (補機・バックアップ用) ■ 製品開発／生産準備

売上高・営業利益・営業利益率



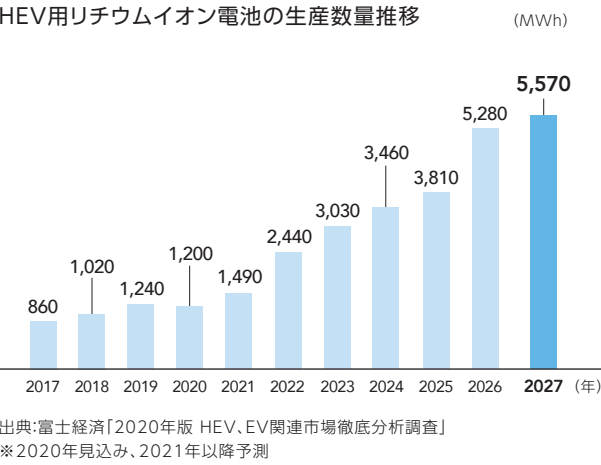
2025年3月期の見通し

HEV 用 ■ 日系自動車メーカーのHEV需要増を追い風とした販売物量の増加
PHEV 用 ■ 車種拡大・生産能力拡張による販売物量の増加 (2023年度:600万セル／年⇒2024年度:800万セル／年)
BEV 用 ■ BEV用電池開発の推進

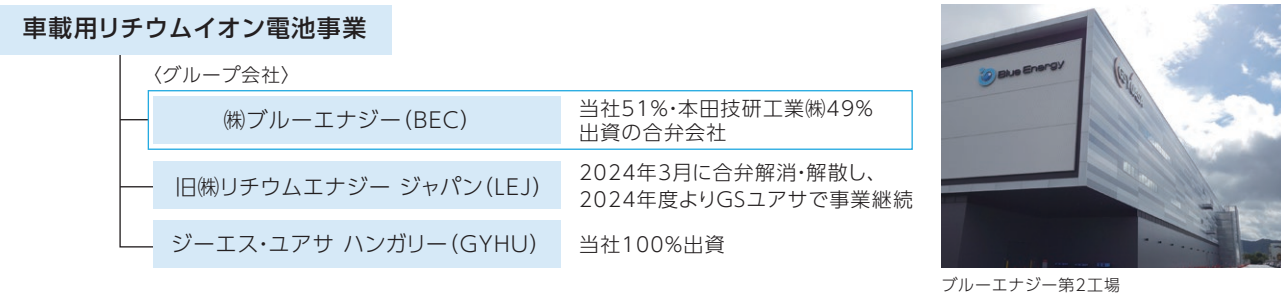
車載用リチウムイオン電池事業の取り組み

HEV用リチウムイオン電池を取り巻く市場環境

HEV用リチウムイオン電池の生産数量は年々増加しています。特に日本では、2030年代半ばの全新車販売電動化目標に向けた日系自動車メーカーの戦略もあり、HEV用リチウムイオン電池の需要は中長期的に伸びていくと予想されます。当社でも、日系自動車メーカーからの需要に生産能力を拡大して対応しています。



ブルーエナジーの概要



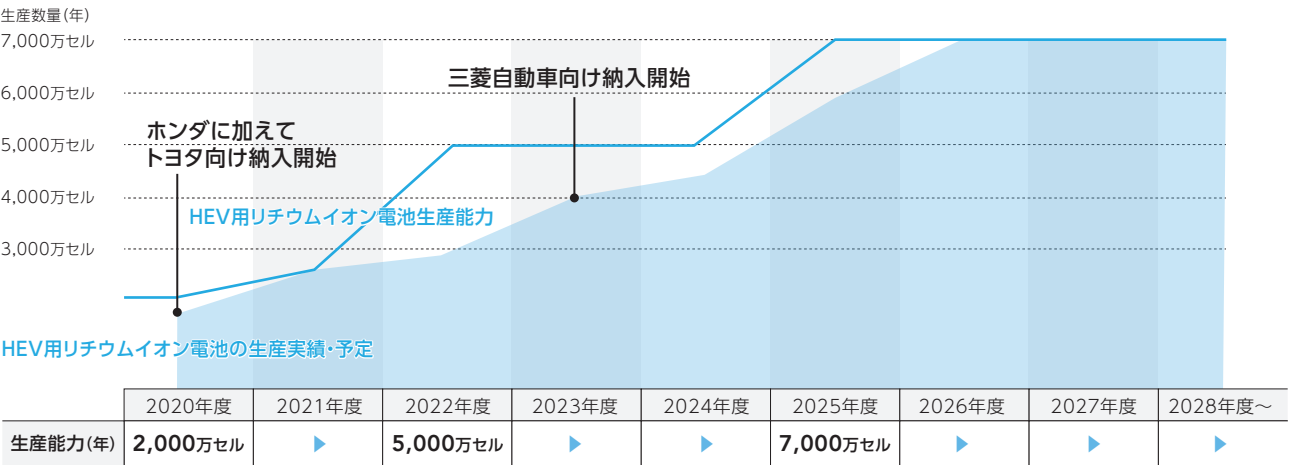
HEV用リチウムイオン電池の主な搭載車種

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度～
ブルーエナジー業績	売上高	219億円	314億円	435億円	587億円	—	—	—
	営業利益	23億円	33億円	36億円	10億円	—	—	—
	営業利益率	10.6%	10.7%	8.4%	1.8%	—	—	—
ブルーエナジー生産能力(年間)		2,000万セル	▶	5,000万セル	▶	▶	7,000万セル	▶
搭載車種	ホンダ							
	トヨタ							
	三菱自動車							

今後も販売車種を拡大

詳細はブルーエナジーのWEBサイトをご確認ください。▶ <https://www.blue-energy.co.jp/jp/products/>

HEV用リチウムイオン電池の生産能力と生産数量推移



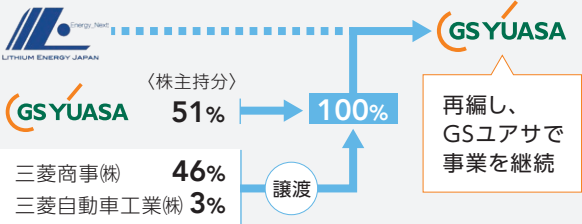
TOPICS リチウムエナジー ジャパンの再編について

当社は2024年3月、PHEV用リチウムイオン電池を生産していた旧リチウムエナジー ジャパンの株式を三菱商事、三菱自動車より譲り受け、100%子会社にした上で解散いたしました。

今回の再編は、GSユアサのリソースを有効に活用し、リチウムイオン電池事業を効率的に進めていくことが最大の目的です。三菱自動車には、引き続きGSユアサとしてリチウムイオン電池の供給をしております。

【再編による効果】

- GSユアサグループとして車載&ESSの拡大に対して機動的な対応を実現
- 株式を譲り受けることで、一時費用は発生するものの、中長期的には純利益・ROEの改善に繋がる



【再編による今後の対応】

